

あい子ども応援基金に協力していただいた皆様と実績

ご協力いただいた機関、企業、団体（敬称略）

塩谷ふあ〜む／シャトレゼホテル石和／株式会社テンヨ武田／株式会社山梨さえき／
 笛吹農業協同組合／生活協同組合パルシステム山梨長野／スマイルいちのみや／
 笛吹市母子寡婦福祉会／笛吹市役所（子育て支援課、生活援護課）／匿名企業1社／
 子ども子育て連絡会（NPO法人学びの広場ふえふき／認定NPO法人Happy Spaceゆうゆう／NPO
 法人みんなの楽校あつぷる／御坂児童センター／子育て支援センター（つどいの広場・きっずいちのみや・きっずみさか・
 きっずやつしろ・わかばほいくえん・きっずいさわ・えいわ）／唐柏「子ども塾」運営者／常德寺育心塾運営者／Kaeru
 Power Plant／結の家-笛吹／防災ブレイメン／子ども子育てやつしろ／子どもの未来を守る「オール笛吹の会」／
 パルシステム山梨長野一宮センター／ブロッサム／なかよし食堂実行委員会）

寄付金をいただいた方（R5年4月～R6年2月1日現在）（順不同）

東八防災株式会社 様／雨宮 善武 様／水平リーベ 代表 樋口 滝人 様／田草川 睦美 様／
 荻野 健 様／竹内 稔 様／株式会社有電 様／影山 栄司 様／渡邊 雅雄 様／東八年金者連盟 様／
 御坂町民フレンドシップゴルフ大会 様／大島 泉 様／今泉 教秋 様／鎮目ふれあい体操会 様／
 株式会社ブリリアント代表取締役 井上清美 様／小宮山 克彦 様／宮川 明史 様／丸茂 佐貴子 様／
 匿名希望3名（団体含む）／あい子ども応援基金募金箱（順不同）

これまでの実績（R2年12月～R6年2月1日現在）（順不同）

学校の長期休暇中の食料・体験支援
 （ひとり親家庭応援事業 他）

819 世帯 / 1,332 人【子ども人数】

ご寄付件数

個人・企業 101件

活動の様子（社協職員が、「あい子ども応援基金」を活用した事業での活動の様子）



**今後も継続的な活動とするために…
 基金への寄付をお願いいたします。**

基金の
 活用方法

- ・食料品や物品の購入費用など、ニーズに応じた活用
- ・事業に必要な事務費・人件費など

寄付金
 控除

この寄付金は、法人税法第37条第4項、
 所得税法第78条第2項に該当し、寄附
 金控除が受けられます。

お問合せ
 お申込み

笛吹社協本所 TEL.055-265-5182
 御坂地域事務所 TEL.055-287-7355
 八代地域事務所 TEL.055-265-2240
 春日居地域事務所 TEL.0553-26-3667

石和地域事務所 TEL.055-262-1267
 一宮地域事務所 TEL.0553-47-2288
 境川地域事務所 TEL.055-266-5911
 芦川地域事務所 TEL.055-298-2170

個を支える支援と
 地域のネットワークづくり

あい子ども応援基金
 ニュースレター

～あいこ～
Aiko



社協 HP



あい子ども
 応援基金ページ

社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会 住所／〒406-0822 笛吹市八代町南 917 電話／055-265-5182 FAX／055-265-5183

はじめに・・・

笛吹の子どもたちのためにいつもご理解・ご協力をいただきありがとうございます。
 今年度も、あい子ども応援基金を活用し、ひとり親家庭を中心に子ども
 たちの夏と冬の思い出作りのための企画を実施しました。

今回の事業の特徴

① ひとり親以外の必要とする子育て世帯への支援の拡充

過去8回の中で、ひとり親の定義には当てはまらない、生活困窮の子育て世帯の相談を受けることが出てきました。
 今回はそのような世帯の子どもたちが、事業に参加できるようにし、既存の支援サービスのはざまにいる世帯へ
 も届けることを目的に、福祉専門職や市役所との連携の中で必要とする子育て世帯からの申込を受け付けました。

② 体験型の事業の実施

保護者からの感想

「体験や思い出作りの機会をなかなか作ってあげられない」
 「生活が優先されるので、子どもの楽しみのために家庭で対応ができない。」
 「仕事や生活に追われて、何か考えてあげる事も難しい」
 「去年の冬に参加し、子どもが自分でお菓子を選べたことを喜んでいて。自主的に何かをさせてあげる事
 が難しいので、そういったこともうれしい」
 「地域の人からの寄付などで支援してもらっている事を知らなかった。自分たちにも協力をしてくれる人が
 いることは嬉しい」

地域の力を借りながら、子どもたちを育てていくことが、地域福祉を行う団体である社協の役割でもあります。
 また、これまで食の支援（経済的貧困への支援）を中心に行っていましたが、保護者の声を受け、地域の力を借
 りながら体験型の事業をも展開し始めました。今年度は地元の企業の力を借りて、夏と冬の長期休みに各家庭の
 思い出作りになるような事業を行いました。

③ 10年後の思い出作りのためのフォトコンテスト

小さいころの「楽しかった」という思い出はそれから先もずっと子どもたちの思い出
 として残ります。「自分の家ではどうせできない」というあきらめの思いではなく、「自分の
 家でも楽しい思い出をつくることのできた」という出来事を具体的に形に残すために、
 フォトコンテストを開催しました。

多かれ少なかれ、生まれ育つ環境は人生に影響を与えます。今後の人生の中で希望を
 見いだせない時、挫折を感じた時に、「自分を大切に想ってくれる人がいる」と思える事
 は困難に立ち向かう力になると信じています。

応募があった、どの写真も笑顔や愛情にあふれとてもあたたかい気持ちになるもので
 した。年齢や環境が変わることで、言葉では伝わりにくい時や素直になれない時もある
 と思います。そんな時にこの「写真」を見ることで、「あの時は」と大切な事を思い出して
 らう一助になればいいと考えています。



夏

第9回ひとり親家庭支援事業 「笑顔で夏を楽しむじゃん」の実施について

事業内容

① 地域のご支援による食料品配付

地域の企業、住民の皆さまからのご厚意による食料品、ちょっとした日用品の配付

② 遊べる夏休み体験チケットの配付

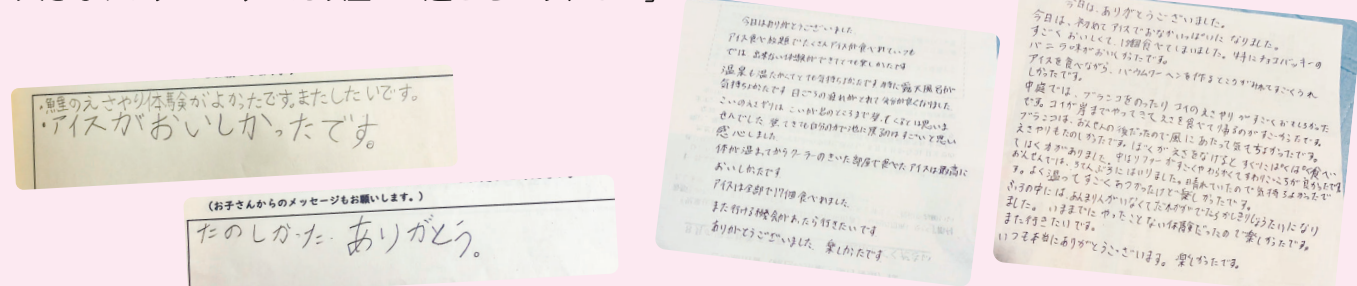
シャトレゼホテル石和での温泉・鯉のえさやり体験・バウムクーヘン工房見学、アイス食べ放題

CHÂTERAISÉ
シャトレゼホテル
石和



参加者からの感想

「いつも家ではアイスは一日1本までしか食べられない。
ここでは兄弟で競うように思い切り食べていて、子どもがひとりで18本食べていた」
「光熱費が高く、クーラーもそんなにつけることができないため、夏の間はシャワーで済ませている。
ここでは温かい湯船にゆっくり浸かった後、クーラーのきいた涼しいロビーでゆっくり過ごせたので
疲れも取れた」
「修学旅行以外で初めてホテルを利用した。
大きなソファでゆったり座って過ごせてうれしい」



配付時のアンケート

保護者の方にアンケートを実施しましたので
結果の一部を掲載いたします。

物価高騰による家計が
「厳しくなった」

98.4%

家計を維持するために
出費を減らしているもの

「食費」 59.4%
「水道・光熱費」 42.2%

食事の内容で減らしたもの

「肉・魚」 31.3%
「おやつ」 35.9%

日々の「親の食事の回数」を
減らした

53.1%

子どもと美味しい
食事が食べたい。

73.5%

子どもの職業体験の
機会がほしい。

59.2%

冬

第10回ひとり親家庭支援事業 「笑顔で冬を楽しむじゃん」の実施について

事業内容 夏のアンケート結果もふまえて 季節行事から家族の団らんへ

SELVA

おかじま



夏のアンケート結果から、物価高の影響などで生活がますます厳しくなっており、季節行事（クリスマスやお正月）などを楽しむ余裕は少なくなっていると思われます。

また、「家族（こども）と一緒に美味しい物を食べたい」との声が多く聞かれました。

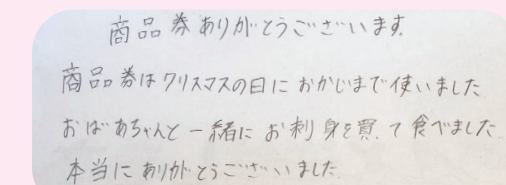
そこで今回は「家族の団らん」をテーマに基金を活用し、地域企業である株式会社さえき様のご協力を得て、セルバ御坂店、セルバ笛吹境川店、おかじま笛吹河内店の3店舗で利用ができる「家族団らんお買い物チケット」の配付を行いました。親子で一緒に買い物に行き、好きな物を選び自宅と一緒に楽しんでいる、そんな情景に思いをはせました。



参加者からの感想

「生活に役立つ物が多いので、とても助かっている。色々の所からご寄付をいただけてありがたい。」
「クリスマスや年末らしい物を買って、子どもたちと一緒に楽しみたい。」
「今回、諸事情で他市に転出してしまふ。転出先ではこういう支援は少ないみたい。とても助かっていたので離れる事が残念。」などの言葉が聞かれました。

また、チケット活用について、「子どもに何を食べたいか聞いたところおばあちゃんを呼んでお刺身を食べたいというので豪華に頂きました」という保護者とこどもからの手紙をいただいたり、感謝の声を聞くことができました。



今後に向けて【夢や希望のある未来に向かって】

物価高騰の影響を受け、コロナの影響が薄れても、依然として経済的な支援を必要とする家庭が多いことが分かります。現実問題として日々の生活が優先され、余暇や教育（学校授業に関するネット環境整備、塾や習い事など）に費用をかける事が難しいとも聞き及んでおります。環境が子どもたちの将来に影響することも少なくないと思われます。

一方、子どもたちと将来について話をするご家庭も多くあり、職業体験などの希望もあることが分かりました。本事業を食の支援など「現在の支援」はもちろん、保護者や子どもたちが将来に夢を持てるような「未来へ繋がる支援」を検討していきます。またひとり親に限らない、笛吹市内の多くの子どもたちに向けた取り組みについて考えていきたいと思ひます。

子どもに向けた公的な支援制度は多くありますが、要件や活用に制限があることも多くあります。社会状況やニーズに合わせた柔軟な活用が行えることがこの基金の強みとなっています。

今後もあい子ども基金、並びに基金を活用した事業へのご理解・ご協力をお願いいたします。